

■高野長英 蘭方医。シーボルト門下随一、渡辺崋山に従い幕政批判、〈蚕社の獄〉で永牢も脱獄、発見され自殺。
たかのちようえい
げんり来航・1804= 陸奥水沢で、藤原氏を祖とする甲州伊沢氏の流れで源頼朝に任じられて以来続く留守家家臣後藤掘介実慶の三男に生まれる。後妻だった母は留守家の侍医で上杉謙信の猛将を祖とする高野玄斎の妹美代。

・ ・ ・ ・ ・ 1810= 6歳 : 学塾を開いていた母方の祖父で蘭学に傾倒していた漢方医の高野元端から、「大学」「中庸」を学び、また、坂野長安から漢学を学んで、
高田屋拿捕・1812= 8歳 : 父が死去して、母が実家に戻ったため、
浮世床・ ・ ・ 1813= 9歳 : 母方の叔父高野玄斎の養子となる。

・ ・ ・ ・ ・ 1815=11歳 : 祖父元端に代わって、漢学を教授。

水野忠成老中1818=14歳 : 元服。
群書類従完結1819=15歳 : 祖父元端が死去、以後、養父玄斎から蘭学の初歩を学び、実兄後藤堪斎が江戸遊学すると聞き、養父の無尽開講に代理出席して当り籤になると、それを資金に江戸遊学したいと師長安を介して養父の許可を得、堪斎に同行して江戸に出、一関出の蘭学者の住込み門人を経て、杉田伯元に入塾するも住込み拒否され、按摩稼業して生活費を稼ぐうち、紹介され、蘭医吉田長叔の内弟子となり、師の一字を受け長英と改名。

・ ・ ・ ・ ・ 1820=16歳 : 堪斎が病死し、養父が倒れたという知らせもあって、帰郷するも、養父に面会許されず、直ぐに再出府。
伊能図完成・1821=17歳 : 按摩稼業して生活費を稼ぐうち、紹介され、蘭医吉田長叔の内弟子となり、師の一字を受け長英と改名。
英船浦賀来航1822=18歳 :
シボルト来日・1823=19歳 : 堪斎が病死し、養父が倒れたという知らせもあって、帰郷するも、養父に面会許されず、直ぐに再出府。
シボルト鳴滝塾1824=20歳 : 人に欺かれて中間奉公に身を落すも、独立して医業を開くが、師長叔が金沢で急死、門人一同で吉田塾の経営に苦心するうち、前年来日したシーボルトが鳴滝塾を開いた長崎出身の友人の帰郷に同行を誘われ、異国船打払令1825=21歳 : 同門の先輩の同意を得て、長崎に留学、シーボルトの鳴滝学舎に入ると、
・ ・ ・ ・ ・ 1826=22歳 : *蘭語論文をシーボルトに提出して、ドクトルの称号を授けられるなど、門下随一の語学力を発揮し、平戸藩主松浦侯の援助を受け、「シケイキュンデ」(化学書)20巻の翻訳に着手、
日本外史・ ・ ・ 1827=23歳 : 養父玄斎が死去。続いて、シーボルトの依頼により和文蘭訳の業にしたがい、また岡研介とともに萩の富岡熊谷氏のために「蘭説養生録」を訳すなどするが、
シボルト事件・1828=24歳 : シーボルト事件が起こると、連座をおそれ、長崎から肥後に逃亡、しばらく姿をかくす。
シボルト追放・1829=25歳 : 肥後をたち、筑前の蘭医武谷元立をたずね、安芸広島で開講。
富籤流行・ ・ ・ 1830=26歳 : 広島を去り、尾道・大坂を経て、京都で開業。同地より親戚にあてて高野家相続権の放棄を宣言、他家に禄仕しないことを誓った後、江戸に戻って麹町貝坂で開業。かたわら生理学の研究に従事。
富嶽三十六景1831=27歳 : 郷里から母を迎える。
鼠小僧磔・ ・ ・ 1832=28歳 : *西説医原枢要6巻を著す。渡辺崋山を知ると、蘭書「居家備用」14巻を翻訳して西洋事情研究を助ける。
・ ・ ・ ・ ・ 1836=32歳 : 飢饉対策のため「二物考」を著わし馬鈴薯および早そばの栽培を勧め、「避疫要法」を著わして悪疫流行の防止につとめる。

大塩平八郎乱1837=33歳 : 家屋を買い入れ新居に移る。
適塾ホーン・1838=34歳 : 新居類焼。結婚。モリソン号渡来のうわさを知り、「夢物語」を著して幕府の撃攘策に反対。
蚕社の獄・ ・ ・ 1839=35歳 : *蚕社の獄による華山の召喚を知り、いったん姿をかくすも、北町奉行所に自首。「鳥の鳴音」を著わし、無実を弁するが、「夢物語」による幕政批判の罪で永牢の判決を受ける。

勸進帳初演・1840=36歳 : 母帰郷。牢役人(添役)となる。
天保改革始・1841=37歳 : 牢名主。「蚕社遭厄小記」を草し郷党におくる。
天保改革終・1844=40歳 : 牢内雑役夫の栄蔵に放火させて伝馬町の牢舎から脱獄。田原藩医鈴木春山の計らいで江戸市中に潜伏。
阿部正弘首座1845=41歳 : 春山の兵書翻訳を助け、かたわら「兵制全書」の翻訳に従事。
孝明天皇・ ・ ・ 1846=42歳 : 長男融が誕生。鈴木春山急死。春山の遺志について、プラントの三兵衛術書の翻訳にたずさわる。「遜謹児四星編」等を訳述。
・ ・ ・ ・ ・ 1847=43歳 : 「知彼一助」を著わす。プラントの前掲書の訳出を終え、「三兵衛答古知幾」と題する。
・ ・ ・ ・ ・ 1848=44歳 : 宇和島藩の招きでひそかに同地に赴き、伊東瑞溪の名で蘭学を教授し、「賊家必読」等の兵書を翻訳する。
北斎没・ ・ ・ 1849=45歳 : 江戸に再潜入し、
国定忠治磔・1850=46歳 : 次男要が誕生。*薬品で面相を変え、沢三伯と称して青山百人町で医業を営むうち、捕吏に襲われて自殺。